

## 新デジタルプリントシステムを国内初導入

アフィックス(株) / リンテックサインシステム(株)



## 壁紙や長尺のラッピングサインなどで活用。

アフィックス(株)は2022年7月、リンテックサインシステム(株)が販売する大判の新デジタルプリントシステム「TOKYO WALLPAPER FACTORY」を国内で初めて導入した。

### 「TOKYO WALLPAPER FACTORY」 アフィックス川口ファクトリーに導入

アフィックスは、1995年8月設立。屋外広告や屋内サイン、ディスプレイの企画から制作、施工までを行う会社。近年は、車両のラッピングや内装業への資材の提供も行っており、事業の幅を広げている。新システムは、同社の川口ファ



▲「TOKYO WALLPAPER FACTORY」が設置された、アフィックス川口ファクトリー。

クトリー(埼玉県川口市)に設置された。

### 「Colorado1650」をベースに ネオルト社製ワインダー およびリワインダー使用

アフィックスに納入された「TOKYO WALLPAPER FACTORY」は、キヤノンのジェルUV大判プリンター「Colorado1650」をベースに、イタリアのネオルト社製ワインダーとリワインダーを連結させて、最大500mの大径ロールを搬送できるようにしたもの。

「Colorado1650」は、サインやディスプレイなどに使われる大判のインクジェットプリンターで、最大出力解像度1,800dpiによる高精細と毎時40㎡の生産性を特長に、約500台が全世界で導入されている。

同機を活用した事例は海外に多数ある

が、日本でネオルト社のワインダーとリワインダーを使用し、長尺用のプリントシステムを構築したのは今回が初のケースだ。

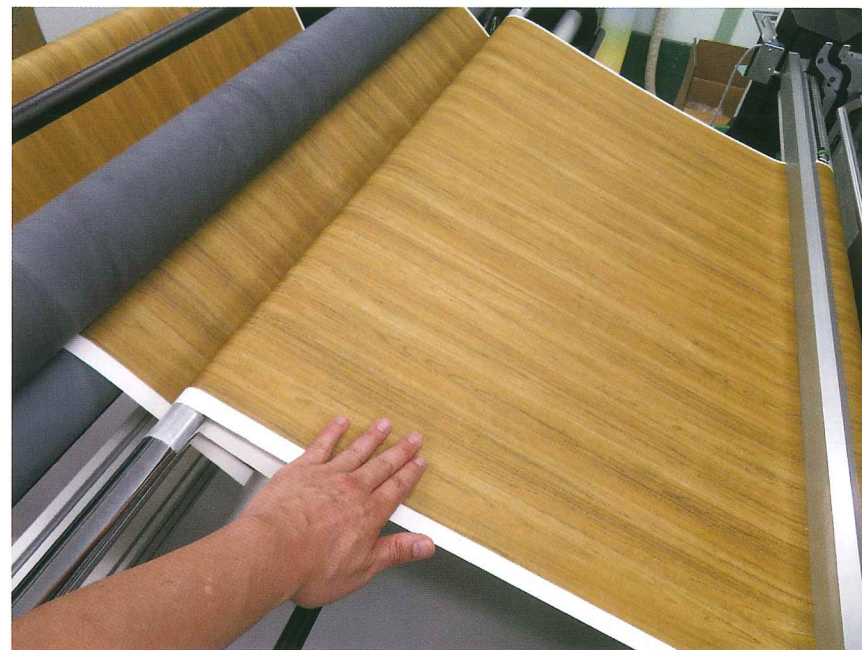
「TOKYO WALLPAPER FACTORY」は、「Colorado1650」本体では50m×2本までだった用紙の搭載量を、500m(800kg)まで延長し、用紙交換不要で最大約10時間の連続プリントが可能になる。

「Colorado1650」は、色差安定性が高く、左右の色差やプリント中の色の変化が少ない。インクの硬化方法を変化させることで、グロスとマットの両方をインクのみで表現できるユニークな機能もある。

加えて、UVインクを使用しているため、速乾性があり、インクの滲みや剥がれがなく、耐擦性も高い。これにより、出力直後でもラミネートやカッティングなどの後加工ができ、即日の出荷も可能



「TOKYO WALLPAPER FACTORY」は「Colorado1650」がベース。イタリアのネオルト社製巻き出し・巻取りを連結。



プリント直後に触れても、滲みやこすれがなく、後加工も可能。

という。

さらに、インクの硬化温度は40度以下で、既存プリンターで一般的な100度以上に比べて非常に低く、メディアへの影響が少ないことも特長。一般的なメディアに加え、薄いメディアや粘着メディアなどにもプリントできる。

メンテナンスは1週間に1度程度、ヘッド周辺を清掃するのみ。他のインクジェットプリンターの場合、終業時に清掃が必要であるのに比べて、調整作業時間やダウンタイムが少ないという。

リンテックサインシステムの小島一仁社長は「Colorado1650は1時間に40㎡という出力速度が特長。これを十分に生

かすには、大口径を搭載できるワインダーとリワインダーが必要となります。壁紙生産の場合、6畳間が約25㎡なので約30分でプリント可能。壁紙ではラテックスインクを使用するケースが多いですが、色の変化が激しく調整が難しい。このプリンターではそれがまるでありません」とシステムの長所を説明する。

同システムの最大プリント幅は1,600mm、価格は本体にワインダー・リワインダーをセットし、約2,000万円となる。

『海外では、Colorado1650を導入して受注が増加した会社が、次々に同機を増やしていくケースがあります。大型の



▲リンテックサインシステムの小島一仁社長。



▲アフィックス営業グループの原 耕輔氏。

高速印刷機を1台入れるよりも、この方が安価でリスクも少なく、生産性も高いという判断です」と小島社長。

また、アフィックス営業グループの原耕輔氏は「壁紙や長尺の連続プリントが必要な製品を作っていきます。8月から本格的な営業を開始し、9月には製品の出荷を行いたいと思います。サンプルなど1mから対応するので、多くの方に活用いただきたい」と話す。

### 壁紙や化粧フィルムなどに 付加価値を加えたプリント

アフィックスでは、壁紙や長尺のラッピングサインなどで同機を活用する予定だ。また、品質の高いプリントにより、壁紙や化粧フィルムなどに付加価値を加えたプリントとして、今後、営業活動を進めていく。

一方のリンテックサインシステムでも、同機での制作物が壁紙や建材として採用されることを想定しており、自社の「パロアAGライナー」などの組み合わせでシステムを販売していく意向だ。

[取材・文 プリント&プロモーション 中村真己]